

【崎田遺跡】

切り立った尾根上で古墳時代の竪穴建物跡がポツンと一軒発見されました。立地的に珍しく、煮炊きする炉跡も見つかっていないことから住居以外の特別な機能の建物だった可能性も考えられます。「井」の文字が書かれた墨書土器が見つかっており識字者の存在がうかがえます。この頃には古代山陰道が近くを通過しており、交通の要衝に発展した集落の可能性がります。

【種前遺跡】

山裾の低地に広がる遺跡で、海拔 4メートル程度にもかかわらず古墳時代の竪穴建物跡が発見されました。市内でこれだけ低い位置で確認された事例はなく、中海に近い点から漁業や海運を生業とする集落跡の可能性が高いと考えられます。この他、中世末から近世の掘立建物遺跡も検出されています。